

2020 年度事業計画

1. 総務委員会

総務委員会は、理事会の下で各委員会と協力して学会活動を円滑に進めていきます。今年度の主要な活動計画は以下の通りです。

1) 財政

収入の維持・増加のために、会員増強活動を行います。また、事業内容の見直しも含め、財政の健全化を実施します。

2) 会員増強

関連委員会との協力の下に会員増強を進めます。春季、秋季の信頼性シンポジウム、フォーラム、見学会等の活動を活発に行い、本学会の存在を広く認知させるとともに、研究会等に企業の方が参加しやすくなるような施策を検討していきます。

3) フォーラムおよび見学会の実施

会員のニーズに沿う、かつ新規会員の獲得に貢献できるような本部主催の見学会を実施します。

4) 関係学会等との協力

新規会員の獲得、会員の発表および情報収集の場の提供のため、関係学会等との協力を行います。

経営工学関連学会協議会（FMES）第 36 回シンポジウムが、2020 年度に開催される予定です。本学会は、開催案内広報や参加者確保の面で支援いたします。

安全工学シンポジウム 2020、第 11 回横幹連合コンファレンスおよび電子情報通信学会・信頼性研究会等の開催に、例年通り積極的に協力します。

5) 国際交流

2020 年 7 月に中国・湖南省にて開催予定の、The 10th International Conference on Quality, Reliability, Risk, Maintenance, and Safety Engineering (QR2MSE 2020) に協賛いたします。本学会からは、土肥正前会長が Honorary Chair、早川有副会長、金路氏、田村慶信氏、Xiao Xiao 氏が Program Committee Member として参画し、国際会議の盛会に向けて支援いたします。

また 2020 年度も、若手学会員を対象に、海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金の募集をいたします。

2. 広報委員会

研究会、フォーラム、各委員会等において、WebEX を用いた遠隔接続に関しては音質の改善等を行い、使用頻度が増えてきました。新型コロナウイルスの問題などもあり、今後はさらに使用する機会が増加することが考えられますので、低コストの接続プランへの変更を検討していきます。延期になっている信頼性フォーラムではサテライト開催を計画しておりますが、昨今のネット負荷の増加から十分な接続品質が得られるかどうかについては事前に検討することを、フォーラム実施を担当する研究会とも調整の上で可否を検討することにします。

Web ページのアクセスに問題がある特定の PC 設定条件に関しては昨年度から課題でし

たが、PCの条件や現象の再現性の把握が困難であり、十分な対応が出来ておりません。再び問題が上がってきた場合にはサーバーの設定等も含めて検討します。

3. 編集委員会

編集委員会で検討した2020年度の年間計画（案）を下表に示します。

発行年	発行月	種類	内容・テーマ	
2020年	4月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載）	
	5月号	展望	品質・信頼性の現場で使える進んだ統計解析手法（仮）	
	6月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）	
	7月号	展望	信頼性教育関係（仮）	
	8月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）	
	9月号	展望	検討中	
	10月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）	
	11月号	展望	検討中	
	12月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）	
	2021年	1月号	展望	検討中
		2月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）
		3月号	展望	検討中

- 1) 学会誌電子版のカラー化を2018年9月号から開始しました。会員からの各記事に対するアクセス状況が編集委員会において平易に分かる仕組みを模索し、得られたデータの活用方法について議論したいと考えております。
- 2) 学会誌で扱うテーマに関しては、掲載された記事に対するアクセス状況などのデータに基づき読者ニーズを掘り起こした上で反映させ、今後も多くの会員に読んで頂ける記事の構成に引き続き工夫をして参る所存です。また、会員の増強に繋がる記事・企画の模索ならびにコラム欄の活用なども検討・実施して参ります。
- 3) これまでの会誌に掲載された展望記事やニュースについて、ある一定期間経過後に一般公開するなど学会としての社会的貢献の方法について検討したいと考えております。

4. 論文審査委員会

引き続き、掲載論文数の増加と、投稿論文審査のさらなるスピード化と質の向上を目指します。

- 1) 掲載論文数の増加を実現し、信頼性学会誌からより多くの情報発信を目指します。2020年度は8編以上の論文投稿、5編以上の論文掲載を目標といたします。
- 2) 研究分野の拡大に対応して、より多くの論文が投稿されるように引き続き検討します。
- 3) 上記目標の達成のため、ショートノート、ケーススタディを活用した情報発信体制の改善、論文審査体制の見直し（特に、メールを用いた論文審査）を実施し、必要に応じて投稿規定等の改正を行います。
- 4) 投稿論文作成と審査の質の向上のため、論文作成に役立つ情報や、審査の心得に

関する情報の準備，発信を行います。

5) 高木賞候補論文の選考を行います。

5. シンポジウム実行委員会

第 28 回春季信頼性シンポジウムは新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。

第 33 回秋季信頼性シンポジウム（特別講演および一般発表）の開催準備と運営のために委員会を 1 回開催し，プログラムの編成等を行う予定です。

また，シンポジウム当日は，運営及びセッションの司会を務めます。

1) 第 28 回春季信頼性シンポジウム【中止】

2) 第 32 回秋季信頼性シンポジウム

日時・場所・特別講演：未定

3) 第 29 回春季信頼性シンポジウム

日時・場所・特別講演：未定

6. 研究会運営委員会

研究会活動を活性化し，成果に結びつけることを目指します。そのために，学会ホームページや学会誌を通じて，各研究会の開催案内や活動状況を紹介します。春季・秋季信頼性シンポジウム，信頼性フォーラム，学会誌，日科技連信頼性・保全性・安全性シンポジウム，他学会などで，研究会活動の成果報告を促します。新型コロナウイルスの感染予防の影響から，イベントの中止や延期が続きますが，ウェブ会議システムを活用することで，研究会活動の停滞を抑えます。また，新たな研究会の立ち上げを支援します。

1) IEC ディペンダビリティ規格研究会（主査：山内慎二氏）【第 1 種】

(1) 活動内容

2020 年度は，2019 年度未実施の以下について審議・研究を行います。

- ・ IEC 60300-3-12(Ed.2) :Integrated logistic support (ILS)の要約
- ・ IEC 62508; Guidance on human aspects of dependability の一次翻訳の審議継続
- ・ IEC 62508, Guidance on human aspects of dependability を研究対象として継続
- ・ IEC 60300-3-15; Engineering of system dependability の予備調査

(2) 計画

- ・原則年 4 回は 3 ヶ月に 1 回（18:30~21:00）開催します。
- ・当研究会の会員の増強に努めます。

(3) 発表

- ・研究成果の発表は未定です。

2) Lcc (Life Cycle Costing) 研究会（主査：中島洋行氏）【第 1 種】

(1) 活動内容

2020 年度も 2019 年度と同様に，IEC 60300-3-12“Dependability management—Part 3-12: Application guide—Integrated logistic support”の検討を進めていきます。

(2) 計画

5回の研究会の開催を予定しています。

(3) 発表

秋季信頼性シンポジウムに向けて、研究成果をまとめたうえで、研究報告を行うことを目標にします。

3) 信頼性試験研究会（主査：松岡敏成氏）【第2種】

(1) 活動内容

2020年度もを継続して「効率的・効果的な信頼性試験の追究」（数と時間への挑戦）のテーマで活動します。信頼性試験ガイドラインの素案を完成させ、2021年度に発行を目指します。

(2) 計画

例年同様に、偶数月の第2金曜日を原則として、年6回の開催を計画します。

(3) 発表

- ①春季・秋季信頼性シンポジウムでの研究発表を行います。
- ②関西支部信頼性フォーラムの開催を行います。

4) 要素技術安全研究会（主査：川島興氏）【第2種】

(1) 活動内容

産業機械、自動車、家電など幅広い分野に広がった機能安全に関連する規格、法規制及び技術動向を捉え、適切な機能安全の適用に資するための活動を行います。

とくに、IEC 61508及び安全関連制御に機能安全を適用する関連規格（産業機械、パワードライブシステム、ロボット、無人搬送車等）の調査を通じて、機能安全規格の理解を深めるとともに課題を顕在化します。

また、機能安全に限らず安全に関する幅広いトピックスを題材にディスカッションを行い、知見を広めます。

(2) 計画

年間5回（6月、7月、10月、12月、2月）を予定しています。

(3) 発表

秋季シンポジウムなどでの研究成果の発表を予定してします。

5) 故障物性研究会（主査：土屋英晴氏）【第2種】

(1) 活動内容

会員と研究会の成長が継続的に進むよう研究会の方向付けを適切に行い、更に大きな成果につなげることを目指します。そのために、特に下記について重点的に実施します。

- ・会員の意思を尊重して、信頼性・安全性の現場で起きている故障や製品事故の中から時流に相応しい研究テーマを創出し活動します。
- ・研究会内に設けた実行委員会や分科会の活動を通じて、研究を深掘りします。
- ・「日本信頼性学会ホームページ：故障物性研究会専用サイト」の運用を継続し、資料の共有化と活用を促進します。

- ・ 成果の一部を外部に公開し、広報するとともに新たな情報収集や会員募集に努めます。

(2) 計画

- ・ 例年同様、研究会を年間 6 回（第 149 回～第 154 回例会／原則、偶数月の金曜日、13 時～17 時）開催する計画を立案しました。（但し、4 月開催予定の第 149 回例会は新型コロナウイルス感染予防のため、中止としました。）第 150 回例会以降についても、情勢によっては開催方法の工夫、中止・延期などを検討します。
- ・ 2020 年 6 月に故障物性研究会発足後 25 年を迎えます。大きな節目に相応しい例会を本年中に開催できるよう計画的に準備を進めます。

(3) 発表

- ・ 春季信頼性シンポジウム，秋季信頼性シンポジウム
最重要イベントと位置付けて、故障物性研究会オーガナイズドセッション，又は一般発表として参加予定です。
- ・ 信頼性フォーラム
2020 年度も、故障物性研究会シリーズ（研究会で企画・運営）を開催予定です。新型コロナウイルスの影響で延期した 2019 年度第 2 回信頼性フォーラム（故障物性研究会シリーズ vol.4）「部材の選定・調達における課題と信頼性の作り込み～グローバル化に伴う品質リスクへの対応～」の開催を優先します。
- ・ 日科技連主催の信頼性・保全性・安全性シンポジウムで発表します。また、故障物性研究会展示ブースを開設し、日本信頼性学会や故障物性研究会を広報します。
- ・ 新規に、日本信頼性学会主催の公開セミナーを企画し実施します。

6) LSI 故障解析研究会（主査：二川清氏）【第 2 種】

(1) 活動内容

LSI の故障解析技術の分野において活動を行っている技術者・研究者に限定して、高度な技術・研究レベルでの、密度の高い討論を行います。

- ・ 研究員が研究中の最新技術の紹介
- ・ 研究会以外からの招待講演
- ・ 他の研究会，国際会議，国内会議，論文などで発表された研究・技術

などをベースに、活発な、忌憚のない議論を行い、研究員相互のレベルアップを図り、その結果として日本の LSI 故障解析技術のレベル向上に寄与することを目的とします。

(2) 計画

2020 年度も、年 2 回の研究会合を実施する予定です。日時・場所・発表者は未定です。

(3) 発表

- ・ 研究成果の発表予定はありません。

7. 表彰委員会

本年度も表彰委員会を開催し、以下を審議します。

- 1) 2019 年 1 月号から 2020 年 11 月号の間に学会誌「信頼性」に掲載された論文の中から、高木賞を選定するための審議を実施します。
- 2) 第 33 回秋季信頼性シンポジウムにおける発表論文の中から、優秀賞 1 件と若手奨励賞

1名を選定するための審議を行います。

3) 2020年1月号から2020年11月号の間に「信頼性」に掲載された論文以外の記事の中から、優秀記事コラム賞を選定するための審議を実施します。

4) 国際交流助成金

2020年度後期に海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金として、応募者の中から助成対象者を決定するための審議を実施します。

8. 関西支部

昨年同様、信頼性に関する現状および将来の展望を探究することを目的とし、講演会(2回程度)および見学会(2回程度)、さらにフォーラム(1回)と研究発表会(電子情報通信学会 信頼性研究会との共催)を行う予定です。特に、フォーラムに関しては講演会を含め会場参加者とのディスカッションが活発に行われるように努めます。

なお、参加人数の目標として講演会30名程度、見学会20名程度とします。また、研究発表会の発表者も信頼性学会会員が増えるように努めます。

9. 本年度の主な事業の予定(再掲)

1) 第42回年次総会 2020年6月1日(月)～5日(金)【メール審議】

2) 第28回春季信頼性シンポジウム 2020年6月1日(月)【中止】

3) 第33回秋季信頼性シンポジウム 2020年 日にち未定

4) フォーラム2回、見学会2回

5) 各研究会

6) 関西支部行事

開催日や内容については、学会誌・信頼性ニュース及びホームページに掲載します。